

Title	1940年1月の天象
Author(s)	
Citation	天界 = The heavens (1939), 20(224): 64-66
Issue Date	1939-11-25
URL	http://hdl.handle.net/2433/167901
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

太陽 新年早々から本月の20日までは“射手座”にあつて、正しく黄道線上を東へ進む。20日には“山羊座”に入る。又、6日20時20分には黄経が 285° 即ち磨羯宮の中央で、之れが俗に言ふ“寒”の入りであるが、越えて、21日13時41分には黄経 300° となり、

1940年

1月の天象

寶瓶宮に入る。此の日から大寒となる。太陽と地球との距離は毎年この一月の頃が最も近く、今年は2日15時頃に0.98326天文単位、即ち14704萬キロ(邦里では3736萬里)の近距離にまで近づく。従つて、此の日頃は、我が地球から見た太陽の視直径も $32'35''.72$ となる。尤も、しかし、太陽の視直径が平均 $31'59''.26$ なのだから、これ位の近距離だとて、決して眼につくほどのものではない。世の中には、“一月に太陽が地球へ近づけば、多少気温にも影響がありませう”などと聞く人もあるけれど、之れしきの距離では、殆んど何の影響も無い。

月 新年早々は所謂“有り明けの月”で、初「日の出」の時刻に弦月が“乙女座”の秋分點あたりで南中する。翌2日14時頃が下弦。越えて、9日16時過ぎに新月となる——此の日は、しかし、舊曆で言へば“十二月朔”である。18日午前3時21分に上弦で、“魚座”の東邊に輝く。25日朝8時22分が満月であるが、其の日の日没後に現はれる月は、既にマン丸くなくて、右上部に幾らか暗い影が見えるだらう。月末の押しつまつた31日23時47分には又、下弦となり、其のまゝ直ぐ翌二月1日の早曉となる。

水星 舊臘18日に西方極大離角(21°)となり、曉天にチラと其の姿を現はしたまい、今年になつてからも尙ほ“明けの星”であるが、13日19時には遠日點を通過し、又、24日には地球から21247萬キロ(5399萬里)といふ遠距離に退き、それから漸次近づく。しかし觀望の期でない。

金星 舊年末から引きつづいて“宵の明星”で、光輝も大きく、視直径も増す。實に星紀2600年の瑞微らしい輝やきである。

火星 昨年末來、だん々々地球を離れ、太陽からも遠のきついあるので、光は淡い。運動は順行で、7日夜半(8日0時)には木星と會合し、其の北 $1^{\circ}10'$ にある。

木星 “魚座”を順行中。7日夜半(8日0時)に火星と會合し、又、23日19時には近日點を通過する。

土星 “魚座”の東邊を順行中。空さへ良ければ觀望によろし。

天王星 “羊座” δ 星の西南を淋しく逆行中。27日8時停留し、後、順序に移る。

海王星 “乙女座” β 星の極く近くを徐々と逆行中。舊臘12月末に順行から轉

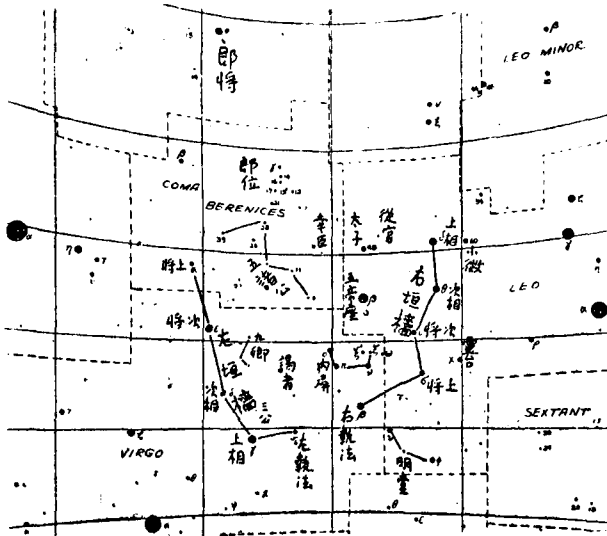
向したばかり。観望には好いが、精しい星圖と望遠鏡が無ければ見えにくい。

冥王星 “蟹座”η星の北を逆行中。19日對衝となるが、光輝が淡いため、世界一の望遠鏡でなければ観られない。

訂正 本誌第221號附録第189頁中、凡例1月1日“己亥”は“癸卯”の誤り。又、大寒1月21日31時41分は同日13時41分の誤り。

年頭の星座 新しき年を迎えた朝、まだ早い夜明け前の星座の眺めも楽しいものである。“オリオン”、“牛”、“駱者”、“双子”、“大犬”、“小犬”等々の、全天を今が盛りと飾る星々は、寒さも打ち忘れて、ジーツと眺め入らせる。大した輝星は無いけれど、今でなければ見られない“エリダン河”の全貌も面白い。鹿兒島から南の方に住む人々は、この長い々々星座の南端に Achernar といふ一等星が輝やいてゐるのを見られるだらう。此の星こそは昔しの支那人も(勿論、西洋人も)知らなかつた星である。

“太微垣”の星々 西洋星座の“獅子”“乙女”“爰”あたりを、支那では昔しから太微垣と呼び、即ち、之れは“天”といふ國家の政廳のある場所と考へた。星には五帝座、太子、五諸侯、九卿、太將、中將、郎將、朗位、三公、謁者等々があり、此の全體を左垣牆と右垣牆とが東西から圍んでゐる。



支那星座の圖 (2)

一月の天體曆表

日付	七曜	正午月齢	干支	天 界 現 象 (日本標準時)	ユリウス日 (21時)
1	月	21.2	癸卯	{ 四方拜 興亞奉公日 海王星と月と會合(15時)	2429630.0
2	火	22.2	甲辰	下弦 地球が近日點(15時)	631.0
3	水	23.2	乙巳	元始祭	632.0
4	木	24.2	丙午	四分儀流星群現はる(早曉)	633.0
5	金	25.2	丁未	宮中新年會	634.0
6	土	26.2	戊申	“小寒”	635.0
7	日	27.2	己酉	火星と木星と會合(24時, 火 1° 10' 北)	636.0
8	月	28.2	庚戌	水星と月と會合(19時)	637.0
9	火	29.2	辛亥	新月	638.0
10	水	0.5	壬子		639.0
11	木	1.5	癸丑		640.0
12	金	2.5	甲寅	金星と月と會合(22時)	641.0
13	土	3.5	乙卯	水星が遠日點(19時)	642.0
14	日	4.5	丙辰	月が地球から最遠(21時)	643.0
15	月	5.5	丁巳		644.0
16	火	6.5	戊午	{ 木星と月と會合(7時) 火星と月と會合(16時)	645.0
17	水	7.5	己未		646.0
18	木	8.5	庚申	土用 上弦 土星と月と會合(2時)	647.0
19	金	9.5	辛酉	天王星と月と會合	648.0
20	土	10.5	壬戌		649.0
21	日	11.5	癸亥	“大寒”	650.0
22	月	12.5	甲子		651.0
23	火	13.5	乙丑	木星が近日點(19時)	652.0
24	水	14.5	丙寅		653.0
25	木	15.5	丁卯	満月	654.0
26	金	16.5	戊辰	月が地球に最近(20時)	655.0
27	土	17.5	[己巳]	天王星が停留(8時)	656.0
28	日	18.5	庚午	海王星と月と會合	657.0
28	月	19.5	辛未		658.0
30	火	20.5	壬申		659.0
31	水	21.5	癸酉	下弦	660.0